

# 令和3年度学校評価シート（自己評価）

かびら幼稚園  
令和4年2月1日

## 1、園の教育目標

真実の人生を精一杯生き抜こうという仏教精神に基づき、「心と体の健康づくり」をモットーに楽しい集団生活を通して、社会性を身に付け、調和のとれた人格形成を目指す。

### 教育目標

1. 素直なこども（無心に手を合わせる気持ちを大切に）
2. 心の暖かいこども（お互いを認め合う。喜びも悲しみも共にする。自然に親しみ、感動する心）
3. 意欲のあるこども（初めてのことに挑戦する。自分に勝つ。正しい勇気を発揮する。）

## 2、具体的な目標や計画

創立以来、培ってきた全園児を全職員で保育、教育し、園児を中心に教職員と父母、地域のボランティアの力もお借りし、本当の意味での教育的な環境を作り上げ、園児たちを育ててきたかびら幼稚園を、現在の社会の変化に対応し、保護者のニーズに応え、そして何よりも子ども達にとって必要なものを与えることができる幼稚園に進化させるための取り組みを推し進めていく。

平成31年4月より幼稚園型認定こども園の認定を受け、両親が共働きであってもかびら幼稚園の教育を望む家庭を受け入れしやすい仕組みは整ったため、教育面も続けるべきものとかかわるべきものを見極めて、園児と教職員がともに成長できる園を作っていく。教職員の働き方改革もすすめていく。

## 3、評価項目の取り組み及び達成状況

評価項目	結果 (※)	結果の理由
HP、おたより、一斉配信メールでの情報発信力の強化	A	HPのブログによる園生活報告を、一年を通して行い、園の様子をよく伝えることができた。ブログ更新を保育主任他、各学年の担任担当が行い、更新数だけでなく内容も充実した。 一方で、一斉配信メールを活用し、台風や雪の時の対応など迅速に情報発信を行った。今年度も新型コロナウイルス感染症の臨時休園にあたって、平成30年度に運用を開始した一斉配信メールのシステムが有効であった。
長時間預かり保育の充実と教職員の働き方改革	B	幼稚園型認定こども園として3号認定（1，2歳児）を受け入れ、保育園部門も立ち上げ、一部の教職員がシフト勤務を行うことになった。幼稚園部門の臨時休園の際、2号認定、3号認定の保育は、預かり保育の担当教職員とともに、保育園部門の教職員が担当し、幼稚園部門の教職員とは異なる勤務体制で、互いを支え合う形を目指していく。引き続き、保育主任を中心に勤務時間を効率よく使う具体的な取り組みが実施された。年5日の有給休暇取得義務化とあわせて、有給休暇を取りやすい環境づくりに努めた。必要な時に、必要な休みを取りやすくなったことと、シフト勤務の職員が時間になったら退勤する動きに他の職員も勤務終了後、すみやかに退勤することが当たり前になりつつある。

行事の見直しと父母の会改革	B	昨年度に引き続き、運動会を学年ごとに行った。感染対策について賛同が教職員からも保護者からも寄せられた。今後の行事の見直しに新たな視点を与えてくれた。年長合宿も1泊2日のお泊り保育だったものを2回にわけて日帰りの活動とした。内容も工夫し、新たな楽しみを発見することができた。 父母の会活動の負担軽減のためのさらなる見直しも行った。次年度以降も、固定観念に捕らわれない意識で、行事や父母の会活動の改革に取り組む。
研修機会の増加と現場へのフィードバック	B	認定こども園に移行し、キャリアアップ研修を教職員が積極的に受講。実践的な内容に、受講者自身の新たな学びとなるとともに他の職員にも報告を行い、園全体で情報や問題意識を共有するよう努めている。コロナ禍の状況に対応するため、オンラインで受講（複数）が可能となり、受講機会が増えたことも良かった。研修で学んだことを実際の保育に反映する意識が高まったことも評価できる。

## 4、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	昨年度より意識して取り組んできたものを評価項目としたが、どの項目についても、今年度は、より内容が充実した部分がみられた。守るべきところは守りつつ、変化していこうとする方向性のもと、今後は、必要な変化のため、意識の切り替えがより求められるように思われる。研修を通して、職員自身の意識が変わってきつつあることが感じられ、今後もその傾向を継続させ、さらなる教職員の質の向上、教育保育内容等を充実させる活動に取り組んでいきたい。

○結果（※）について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

## 5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
人材確保と育成、教職員の働き方改革	新人教諭採用のための対策と一年目の新人教育、教職員の輪にうまく取り込む方法を具体的に思案、実行する。教職員一人一人が効率的な時間の使い方を工夫する仕組みを作る一方で保育内容の充実も両立していくよう意識改革を行っていく
未就園児教室と園開放子育て支援の充実	より多くの親子にかびら幼稚園を知ってもらうために、特別感のあるイベント企画など未就園児教室や園開放日へ新規参加者を増やすための工夫を行う。コロナ禍の中で感染拡大予防との兼ね合いが難しいが、実際に園にきて感じてもらえるものも多く、その機会をできるだけ作るよう努力する。保護者への情報発信ツールであるとともに、広報活動の主体としてHPの利用やブログの更新を行う。
幼児教育無償化に伴う満3歳児入園のニーズに応える	令和元年10月より幼児教育無償化が始まり、満3歳からの入園も対象となり、子どもだけで月木通う未就園児教室に年度途中で満3歳入園できるクラス（ほし組）が今年も盛況となった、3号認定の2歳児クラス（めだか）とともに、さらなる内容の充実を図る。